



はくちよう号が
学校にやって来た。
借りたいと待ちわびてい
た本はどこにあるのか。
子どもたちは目を輝かせなが
ら、その先にあるかけがえのな
い一冊を手にする。

暮らしの中に図書館を！

長い間、移動図書館としての役割を担ってきた「はくちよう号」。今回、装いも新たに新車両として生まれ変わりました。本をたくさん積み込んだその車両は、穏やかな日射しが差し込む図書館を後にして、一子どもたちの待つ、中野東小学校へと出発しました。

移動図書館は、昭和58年5月から公民館活動の一環としてスタート。6箱の段ボールに本を詰め込み、「届ける公民館活動」として各地区を巡回しました。

その2年後の昭和60年12月、県の移動図書館「みやま1号」を町が譲り受け、車体を塗り替え、「はくちよう号」と命名。ここに初代はくちよう号が誕生することになりました。はくちよう号の巡回は、その後も二代目はくちよう号、そして今回生まれ変わった新はくちよう号へと脈々と引き継がれています。



町立図書館・館長
石原照盛さん
Ishihara Syosei

現在、町内の4小学校と6施設（ラポール・レイヴン、グループホームヴィラ、つむぎの里、町福祉センター、やまつつじ、長柄公民館）を毎月第二・第四木曜日に巡回中です。平成22年の貸し出し実績は4小学校で3万3,456冊、6施設では2,529冊にものぼっています。県内で移動図書館を実践している自治体は、前橋市・高崎市・沼田市・藤岡市・邑楽町の4市1町だけです。町立図書館の石原館長は、移動図書館事業について「遠隔地に図書館サービス網を確立するために始められた移動図書館は、いつでも、どこでも、だれにでも本を手にとってもらえる機会を広げるための大切な事業」と話します。「図書館に来ることのできない施設利用者の皆さんにも利用してもらえ、学校の子どもたちには図書館を身近に感じてもらえ



1月11日、町立図書館で新はくちよう号の出発式が行われ、関係者の見守る中、本を待ちわびている人たちのもとへと出発しました

由来 白鳥号の名前の由来
Name

昭和53年冬、二羽の白鳥が邑楽町に飛来して以来、当地には毎年数多くの白鳥が訪れます。人々から愛され親しまれる白鳥にちなんで、「はくちよう号」と名付けられました。

読書 中野東小学校の子どもたちの読書
Reading



interview 「毎回、はくちよう号が来るのを楽しみにしています。もし学校に来なくなってしまったら、きつと、さびしいと思います」

菌部聖矢さん
Sonobe Seiya



interview 「はくちよう号で、自分の気に入った本を選んで借っています。本が大好きなので、多いときで10冊読んだこともあります」

内藤裕可さん
Naito Yuka



歩み 白鳥号の歩み
History

- 巡回移動図書館サービス開始 1983. 5 (昭58)
- 初代はくちよう号 1985. 2 (昭60)
県の移動図書館「みやま1号」を町が譲り受け改装
- 二代目はくちよう号 1993. 1 (平5)
- 町立図書館開館 1995. 1 (平7)
- 新はくちよう号誕生 2012. 1 (平24)



新はくちよう号 平成22年度の総務省「住民の生活に光をそそぐ交付金」を受けて製作され、昨年の12月28日に納車されました。車体の絵は、絵本作家の阿部肇さん（明野・34区）に依頼して作成されたものです。白鳥を中心にさまざまな個性豊かな動物たちが描かれ、見るものを和ませてくれます。約1,500冊の図書を載せて巡回することができます。購入総額は、886万9,000円（車両・車体製作・設備）。

新 Library

はくちよう号出発